

ご存知ですか、重慶の「広島園」

吉川 孝子

<広島園での茶道イベント>

この新緑の時期、5月11日～12日に重慶市内の広島市が寄贈した日本庭園にて、茶道のイベントが在重慶日本国総領事館主催のもと開催されました。

このイベントは日中国交正常化45周年記念イベントの一つとしてもとらえられ、風情ある日本庭園にて抹茶とお茶菓子が提供されました。領事館から邦人の皆様や日本語学校などにお声が掛けられ、晴天の中思いのほか沢山の方々が茶会に出席して日本の野点(のだて)を満喫していました。

しかしながら、今やこの公園は重慶市民にも広島市から寄贈されていることを知っている人は少なく、無論重慶に駐在している日本人の方にもほとんど知名度がありません。

在重慶日本国総領事館首席領事斎藤氏からも今後、この素晴らしい庭園を活用して広島と重慶の交流が更に深まるイベントを開催できないものかとのご意見がありました。

<開園の経緯>

広島園は重慶市と広島市の庭園文化交流の証として、両市人民の友情を象徴するものであり、広島市によって設計され、重慶市園林建築工程会社が施工し、1991年10月15日市民に開放されました。全園の面積はトータル2,000平方メートルで、独創的なデザインであり、自然な風格、質素精巧、さわやかで上品な日本の古典庭園の風貌を再現しています。造園技術の精巧さが随所に現れ、日本庭園芸術の縮図と言われています。

また、1992年に広島市の中央公園には中国式の庭園「渝華園(ゆかえん)」が建設されています。重慶市寄贈の設計図を基礎として、中国の伝統的な庭園理念と作り方を活かした手法で造形され、中国古典的な重慶庭園に属するものです。面積は約1,700平方メートルとなっています。

<参加者の感想>

訪れていた市民は「静かで綺麗な庭園で、心が落ち着きます。」「小道は小石が敷きつめられた砂利道なので、歩く度にカサカサという音がいいですね。」「総領事夫人と領事館の方々が点てたお茶をいただき、日本の茶道文化を体験しました。先ず茶菓子をいただき、それから抹茶を一口飲むと、茶菓子の甘さと抹茶の味が一体となり、最高でした。茶道の礼儀作法も教えていただき、お茶会に参加してよかったです。」と一般市民にも評価が高かったようです。

